

調査報告

地域の健康課題の抽出・分析を取り入れた臨地実習から得た学生の学び

手嶋 哲子・清水 真理*・森 樹沙・岩山 直未

(2012年12月26日受稿)

抄録： 2008年から、北海道千歳保健所で実習した学生に、健康や栄養に関するアンケート調査の実施から健康栄養教育実施の一連のプロセスを体験する臨地実習を行った。健康課題の抽出・分析を取り入れた臨地実習で学生がどのような学びを得ていたかを明らかにすることを目的に、実習後に提出された報告書の記述内容を分析した。学生の記述と自己評価から、「公衆栄養の重要性」「協働と他職種、関係機関の連携」の理解度が高く、臨地実習の目的を達成できたことが示唆された。一方、「地域社会資源の理解」や「地域で暮らす人を生活の主体者として捉える」に関する目標は、実習施設の特徴や実習期間の関連から理解度が低い結果となった。健康栄養教育実施の一連のプロセスを体験した学生は、健康栄養教育のプロセスを理解した他に、メンバー間に連帯感を生み、将来展望を示すことに繋がった。臨地実習の目標達成のためには、科目担当教員と指導担当管理栄養士の連携の重要性が示唆された。

I. 緒言

我が国の疾病構造の変化や高齢者の増加など社会状況の変化に対応するため、1998年に管理栄養士の業務内容や教育のあり方について報告書がとりまとめ提言され¹⁾、管理栄養士の養成における教育科目や実務実習の見直しの必要性が示された。これを受け、2000年に栄養士法が一部改正され²⁾、2002年には養成カリキュラムが改正された³⁾。この新カリキュラムの中で臨地実習は、学内で修得した知識・技術を栄養管理の実践の場面に適用し、理論と実践を結びつけて理解できることをねらいとし、充実を図ることが示された³⁾。さらに、2009年には卒前4年間に教育すべき具体的事項として「モデルコアカリキュラム」が提案された⁴⁾。この、コアカリキュラムでは、健康増進の臨地実習の到達目標として次の4項目が提案されている⁴⁾。①保健所、保健センターの役割・業務の概要と両者の関係を説明できる。②地域住民の健康、福祉等に関わる業務内容とその役割を理解する。③地域住民を対象とした健康教育、例

えば「健康・栄養教室」等の企画、広報、実施、評価、フィードバック等の一連のプロセスを概説できる。④地域の関係機関の育成・支援のプロセスを概説できる。これらのことから、人間の健康の維持・増進および生活の質の向上を目指して、望ましい栄養状態・食生活の実現に向けての支援と活動を、栄養学及び関連する諸科学をふまえて実践できる専門職である管理栄養士⁴⁾を養成するためには、臨地実習が重要な科目として位置づけられたと考えられる。しかし、臨地実習のカリキュラムには、具体的な規定が示されていないため施設により実習内容が異なり、学生の学びや目標達成度に違いが表れている⁵⁾ことから、臨地実習の実習内容の検討が重要であると考えられる。

本学の公衆栄養学分野の臨地実習では、地域の健康・栄養問題や課題を組織的に予防・解決していく時に必要となる管理栄養士の支援のあり方を、既習の知識・理論と統合させて理解することを目的としている。2008年からは、北海道石狩振興局保健環境部千歳地域保健室（以下、千歳保健所）で実習した学生に、食と健康に関するアン

ケート調査（以下、調査）の実施から健康栄養教育実施の一連のプロセスを体験する臨地実習を行った。事後学習として提出された報告書には、臨地実習から得た多くの学びが記載されていた。

本研究では、地域の健康課題の抽出・分析を取り入れた臨地実習で学生がどのような学びを得ていたかを明らかにすることを目的に、実習後に提出された報告書の記述内容を分析した結果を報告する。

II. 臨地実習概要

千歳保健所での臨地実習は、4年生が4～6名のグループで5日間の日程で実施された。この臨地実習は、「管理栄養士として具備すべき知識及び技能である公衆栄養アセスメントに基づいたプログラムの作成・実施・評価する能力を養う実習」として位置づけ、実習日程の調整が行なわれた。

1. 事前学習等の内容

事前学習の内容としては、学生は千歳保健所管内の健康・栄養問題を各種計画や北海道保健統計から把握することと、関係法令や制度の確認を行った。

調査用紙は、学生が中心となり過去の報告書を参考に作成するが、調査項目が重複しないことを科目担当教員より指導した。

健康・栄養教育の内容及び媒体の作成は、調査結果を基に計画を作成し、科目担当教員と実習施設の指導管理栄養士の指導を受けて完成させた。健康・栄養教育の指導練習は、他施設で実習する

学生が住民参加者役となり、科目担当教員等の指導を受けながら数回行った。指導練習終了時点で、参加者役となった学生の意見を取り入れて内容の修正を繰り返している。

2. 保健所での実習の内容

道立保健所では「管理栄養士養成施設学生の保健所実習実施要項」に基づき、保健所管理栄養士業務並びに市町村栄養士業務の他、保健所業務全般について講義方式で多職種から学ぶことと、地域における食由来の健康課題の抽出とアセスメントを目的として「食と健康に関するアンケート」を実施している。調査対象は千歳保健所管内特定（多数）給食施設の従事者とし、調査結果に基づき実習期間中に開催される「管内特定（多数）給食施設調理従事者（調理師及び調理員対象）研修会」受講者に健康教育を行うプログラムであった。調査は、食と健康に関する調査とし、テーマは各年とも学生が設定した。内容は、1) 生活習慣全般（2カ年）、2) 脂質の摂取、3) 糖質の摂取、4) 高血圧と食塩で意識と行動の実態を把握することを目的とした。質問は10問程度の自記式アンケート、調査協力者数は各年200～300人であった。質問紙の作成、データ処理及び結果のまとめ、報告書の作成は学生によって行われた（表1）。

また、本調査結果を基に「健康づくり事業」にかかる企画・立案をグループ討議方式で行っている。アンケートから明らかとなった健康課題と学生が設定した健康教育におけるテーマの妥当性の検討を行い、データ解析の際に持つべき視点と根拠に基づく事業の企画・立案の重要性を振り返り

表1 実習年度別人数と調査対象者・テーマ

実習年度	実習 学生数	調査内容		
		対象者	協力者数	テーマ
2008	4	給食施設従事者	139	生活習慣全般
	4	A事業所勤務者	194	生活習慣全般
2009	6	給食施設従事者	290	生活習慣全般
2010	6	給食施設従事者	206	脂質の摂取
2011	6	給食施設従事者	218	糖質の摂取
2012	4	給食施設従事者	263	高血圧と食塩

表2 千歳保健所の実習日程

実習区分	内容		
事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特徴、関係法令を把握する。(北海道保健統計など) ・健康教育対象者に対する調査票の作成・実施・集計・分析 ・健康教育対象者の特性を確認し健康教育の計画書を作成する。 ・デモンストレーションの実施。 		
	午前	午後	
1日目	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・企画総務課業務について ・生活衛生課業務について 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進課業務について ・地域保健活動と保健師業務について ・公衆衛生業務と地域保健活動について ・子育て主査業務について ・保健所管理栄養士業務について 	
現地で の実習	2日目	実習課題の検討 市町村栄養士業務について	乳幼児健診見学 乳幼児健診カンファレンス 記録整理
	3日目	実習課題の検討	実習課題の検討 記録整理
	4日目	実習課題の検討およびまとめ	特定給食施設従事者研修会 ・健康教育の実際 記録整理
	5日目	実習課題のまとめ及び報告会準備	実習報告会準備 実習報告会 実習カンファレンス 記録整理

で学ぶ内容であった。(表2)

Ⅲ. 方法

1. 分析対象

2008～2012年度の5年間に公衆栄養学臨地実習を履修した学生180名のうち、千歳保健所で実習を行った30名の実習報告書の総括記述と自己評価を対象とした。

2. 総括記述の分析

総括記述は、実習終了後に作成する実習報告書に記載され、科目担当教員と臨地実習指導管理栄養士(以下、指導管理栄養士)に提出される。実習総括の目的は、実習における学びを振り返り、体験したことと既習の知識や考え方と結びつけて考えることとしている。書き方については、全体を通しての学びや感想を記述することと、実習目標毎に振り返り記述することを指導した。

学びのキーワードを「理解」「学び」として、総括記述より実習を通しての学びを表現している文章を全て抽出した。実習内容毎に類似した記述内容をグループ化およびネーミングする質的分析によりカテゴリー化を行った。分析は複数名で行い、妥当性、適応性、一貫性の確保に努めた。

3. 自己評価の分析

学生の自己評価は、臨地実習終了時に、学生が自己評価表を用いて、実習目標毎に各項目4段階で評価を行った。評価項目は、目標1「地域で生活している人々がどのような健康・栄養問題や課題を抱えているかについて、地域特性や社会背景と関連させて考察できる」が2項目、目標2「健康・栄養問題や課題に応じた管理栄養士の活動に触れ、個人への支援・集団への支援・地域への支援の特徴、又はそれらの組み合わせた支援について理解できる」3項目、目標3「保健・医療・福祉・介護サービスを含めた地域における社会資源を理

解し、地域住民・専門他職種や他機関との連携の重要性を理解できる」が2項目、実習態度3項目とした。評価基準は、「Aよくできた」5点、「Bだいたいできた」4点、「Cあまり良くできなかった」3点、「Dできなかった」2点とした。

解析方法は、評価項目ごとに記述統計解析を行い、平均点数±SDを算出した。解析には、Microsoft office Excel 2007を用いた。

4. 倫理的配慮

実習報告書を使用するにあたり、文章の抽出は個人を特定できない者が行い、結果に関する匿名性を保ち、学生に不利益が生じないための配慮を行った。なお、本研究は、北海道文教大学人間科学部教育と研究にかかわる倫理的審査委員会の了承を得て実施した。

IV. 結果

1. 臨地実習での学び

学生の記述内容からの抽出された学びは、1) 保健所・保健センターの業務に関する理解、2) 協働と他職種、関係機関との連携の理解、3) 健康・栄養教育のプロセスの理解、4) メンバーとの関係性、5) 将来への展望であった。以下、これらのカテゴリーに沿って学生の学びについて記す。

1) 保健所・保健センターの業務に関する理解 (表3-1)

保健所と保健センターの業務に関する記述は、最も多く記載されていた。それぞれの管理栄養士の業務に関する学びの記述の他に、保健所の各課の業務を理解や地域住民の健康を守るために重要な業務であることを理解していた。保健所と保健センターの業務の違いを、地域住民と接する距離の違いであると表現し、地域住民の健康を目指している点では一致していると理解していた。

2) 協働と他職種、関係機関との連携の理解 (表

3-2)

保健所の業務は、他職種との協働や連携が基本であり、住民の健康づくりや健康の保持増進を目指すためには不可欠であることを理解していた。また、連携して業務を進める為には、職種間におけるお互いの業務に関しての理解や助け合うことの重要性を理解していた。

3) 健康・栄養教育のプロセスの理解 (表3-3)

課題としての取り組みにより健康・栄養教育の一連のプロセスを理解していた。また、学内では経験することの無い多数の対象者の前に立ったことが、指導することの責任感や取組に関する達成感を得ることに繋がっていた。

4) メンバーとの関係性 (表3-4)

学生たちは、実習開始2カ月前より協力して課題に取り組んでいた。課題に取り組む中で、協調性の大切さを実感し、お互いに助け合いながら連帯感を育み、相手を尊重し意見を交換できる発展的な関係を獲得していた。

5) 将来への展望 (表3-5)

実習での体験を通じた学びが、実社会で活用できる力を習得したと学生は実感していた。また、多様な管理栄養士の業務を理解し、自らが管理栄養士として勤務した時に活用したい事柄として具体的に述べていた。

表 3 臨地実習からの学びのカテゴリー

表 3-1 保健所・保健センターの業務に関する理解

サブカテゴリー	学生の記述例
保健所の業務の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・法で定められた保健所の業務を今までとは違った見方ができるようになった。 ・住民の生活の安全や快適な生活環境を保持する業務を行っていることを学んだ。 <p>法律に基づいて業務を行っているが、実際の業務はとても人間味溢れる温かいサービスを提供しているのだと気付くことができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対人についてなど様々な業務を広域で行わなければならない、柔軟な対応が必要だと学びました。 ・対象となる地域の特性を十分に理解した上で地域住民のためとなる公衆衛生の向上及び増進に努めなければならないということを理解した。
保健所栄養士の業務の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・管轄する地域のことをよく把握してなければならず、道が策定した事業をその地域の特性に合わせたものにしたり、市との調整を行う等総合的な仕事を行っていることが分かった。 ・広域的な活動が基本となり、業務内容も幅広いことを知った。 ・専門職として、実態から栄養面でのサポートを行うために法律や深い専門知識を身につけていなければ、円滑に業務を遂行できないことを学んだ。
保健所と保健センターの業務の共通点と相違点	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所とは住民の方々に対して広域的な支援を行う場所であり市町村は、より住民に身近な支援を行う場所であるという事を理解することが出来た。 ・保健所では広域的で間接的に住民の支援を行っていること、保健センターは住民に身近な支援を行っているということを実際に感じられ、理解できた。 ・最も大きな違いは地域住民と接する距離が違うということだと分かった。 ・地域住民の健康を追求するという点では、目指すところは同じだが、介入方法が異なることを学んだ。 ・地域住民の健康のためにという同じ目標を持っていることが実習に行ってわかりました。 ・業務内容は違っても目指すものは一緒であると実感することが出来ました。

表 3-2 協働と他職種、関係機関との連携の理解

サブカテゴリー	学生の記述例
他職種との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種と連携をとりながら対象者の把握を行うことで、対象者の行動変容や生活のサポートが可能であること。 ・連携して支援していくことでよりよい地域づくりができるのだと感じた。 ・職種同士お互いを理解し助け合う事が何事においても必要であり、重要な事と感じた。 ・一つの事業を実現するために様々な資源や人材が必要ということを考えながら運営していかなければならないことがよくわかった。 ・様々な職種と連携することが基本であり、地域住民の健康を守り、促進していくための活動をいろいろな方向から行っていることがよくわかった。
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活改善推進員のサポートがあつての市民に対して支援を行える保健事業なのだと感じた。 ・保健所では保健師さんや市の栄養士さん、学校の栄養教諭、食生活改善推進員などと連携・協力・育成がとても重要であることを学びました。

表 3-3 健康・栄養教育のプロセスの理解

サブカテゴリー	学生の記述例
一連のプロセスの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・実習課題では、健康教育を実施するまでの一連の流れを理解することができた。 ・栄養教育がどのような手順で行われていくのかがわかった。 ・健康教育の企画・実施の過程を学ぶと共に、“伝える”とはどういうことなのかよく考えさせられた。
指導することの責任	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育のときに私たちの話を聞いて熱心にメモをとっている方を見て、自分たち健康を教育する側として、責任を持たなければならないと強く感じました。 ・私たちは情報を伝える側ということを実感し、責任を持って話さなければならないということも学びました。
健康教育実施による達成感	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育では自分たちの現在の精一杯の力を実感した。 ・健康教育では大勢の前で発表することがないので、とても貴重な経験になりましたし、自分が成長できたような気がします。 ・反省点は多いが良い発表になったのではないかと感じている。

表 3-4 メンバーとの関係性

サブカテゴリー	学生の記述例
メンバー間に生じた連帯感	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力して物事を進めることの大切さを改めて感じるすることができた。 ・6人で力を合わせて実習をやり遂げることができてよかったと思う。 ・班の人たちと協力して作ることで一体感を感じることも出来ました。
発展した関係	<ul style="list-style-type: none"> ・反省を言い合えてよかったと感じ、相手に伝えることの難しさや必要性を感じました。 ・メンバーと協力して、信頼関係を作っていかなければ物事は円滑に進まず、連帯感や達成感を感じることは出来なかったと思う。

表 3-5 将来への展望

サブカテゴリー	学生の記述例
社会で活用したい力の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・実習で学んできたことを活かしていきたいと思いました。 ・社会に出てから必要な力を身につけることが出来、広い範囲で勉強することが出来た。 ・考え方の視野を広げることができたのではないかと感じた。 ・これからの自分にとって学んでいくべき姿勢、考え方を得られた実習だった。
管理栄養士業務での活用	<ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士になった際に必要な細かな技術を学べたと思う。 ・今後も相手を思いやった健康教育をできるようにしていきたい。 ・参加者が興味を持てる話し方、声の強弱、参加者も参加出来るような健康教育の方法を取り入れていきたいと思った。

3. 自己評価の結果

自己評価の結果では、目標3②「関係機関や関係者との調整や連携の実際と必要性について理解することができた」が最も点数が高く4.7±0.7であった。続いて、目標2①「公衆栄養活動の対象は、個人のみではなく地域でもあることを説明できる」4.6±0.8、目標1②「健康・栄養問題や課題を、地域特性や社会背景と関連づけて説明する

ことができる」4.5±0.7であった。

一方、点数の低かったのは、目標3①「地域社会資源について理解することができた」3.7±0.8、目標1①「地域で暮らす人々は、生活の主体者であることを具体的に述べることができる」4.0±0.8であった。

実習態度①「積極的に取り組むことができた」は4.5±0.9であった。

表4 学生の自己評価得点

	目標項目	点数 (n=30)
目標1	①地域で暮らす人々は、生活の主体者であることを具体的に述べるができる。	4.0±0.8
	②健康・栄養問題や課題を、地域特性や社会背景と関連づけて説明することができる。	4.5±0.7
目標2	①公衆栄養活動の対象は、個人のみではなく地域でもあることを説明できる。	4.6±0.8
	②主体性を尊重した支援活動の必要性について説明できる。	4.4±0.7
	③個人・集団・地域への支援を効果的に組み合わせ、どのように支援が行われているかを理解することができた。	4.1±0.7
目標3	①地域社会資源について理解することができた。	3.7±0.8
	②関係機関や関係者との調整や連携の実際と必要性について理解することができた。	4.7±0.7
実習態度	①積極的に取り組むことができた。	4.5±0.9
	②実習指導者への連絡・報告・記録の提出を速やかに行うことができた。	4.3±0.9
	③実習中の諸注意を守り、学生らしい節度・協調的態で実習に臨むことができた。	4.7±0.6

V. 考 察

本研究では、学生の実習報告書から抽出された学びから、地域の健康課題の抽出・分析を取り入れた臨地実習での成果を検討した。

学生の記述から、保健所・保健センターの業務が目指している地域住民の健康づくりに対する支援や関係機関との連携の重要性が述べられていた。自己評価においては、関係機関や関係者との調整や連携の実際と必要性についての理解が最も高い点数となっていた。学生は、地域保健法⁶⁾で規定されている保健所の業務を、事前学習に取り組みながらイメージしている。しかし、学生にとっては、栄養士法⁷⁾に規定されている管理栄養士の業務である傷病者に対する療養のための栄養指導や特別の配慮を必要とする給食管理⁶⁾に比べるとポピュレーションアプローチである公衆栄養や地域保健を具体的にイメージすることが困難なまま臨地実習に臨んでいる。保健所の業務全般を担当者である各職種から講義を受けることは、学生がイメージしていた業務や広域的な地域支援を具現化することに繋がり、さらに「違った見方ができ

るようになった」と記述されているように、学生がイメージしていた業務以上に広がりのある業務として理解したと思われる。そのことが、保健所管理栄養士の業務の広さと重要性を理解することに繋がっていると考える。また、多職種から講義を受けることにより、一職種で行える業務では無い事と連携の重要性を理解することに繋がっていると考える。一方、地域社会資源の理解や地域で暮らす人を生活の主体者として捉える事に関しての自己評価は、他の項目より低い点数となっている。これは、保健所の業務では、直接的な住民支援を実施していないことと5日間の日程で保健センター業務の見学に費やす時間が限られることが影響していると思われる。市町村業務と連携して実習日程を計画しているが、取り組み方等での工夫が必要と思われる。これらのことから、臨地実習の目的である「公衆栄養の重要性」「協働と他職種、関係機関の連携」については達成できたと考える。

健康栄養教育のプロセスの理解については、学生の記述から一連の流れを理解したことが述べられていた。調査票の作成から健康教育実施までの

2カ月間に、学生は自らの考えと現状の差を幾度となく感じ、メンバー間での議論を繰り返しながら取り組んでいた。そのことが、メンバー間に連帯感を生み、さらに、意見や反省を言い合える発展的な関係に繋がったと思われる。調査結果の分析から健康教育実施に至るまでの取り組みにおいて学生は、実習の大変さを訴えることがしばしば見られた。しかし、学生はこれまで経験したことの無い多数の対象者に健康教育を実施し、指導する責任を感じた事のほかに、多くの対象者の暖かな眼差しや熱心に聞く姿などの反応を直に感じる事ができた。このことは、メンバーで支え合いながら困難を乗り越えたことを実感した瞬間であり、達成感を得た瞬間でもあったと思われる。さらに、実習で得た学びが社会に出た時に必要な学びであることを理解し、その学びを管理栄養士として活用することを望んでいた。

公衆栄養学分野の臨地実習は、受け入れ施設の体制により現地での実習は5日間が限界となっている。この限られた時間の中で、学生の臨地実習の目標設定や効率的に実習に取り組むことは重要な課題である。本研究で示した調査の実施から健康栄養教育実施の一連のプロセスを体験する臨地実習では、事前学習としての取り組みが学生の目標達成に大きく影響していると考えられる。特に、科目担当教員と指導管理栄養士の臨地実習目標の共有や実習学生に関する情報の共有の他に、学生の取り組みの進捗状況を共有し、それぞれの立場で学生をサポートできたことが臨地実習の目標達成に繋がったと考える。

本研究では、学生の総括記述から臨地実習の目的を達成したこととメンバー間に連帯感が生じたことと将来展望が明確になったことが分かった。しかし、健康課題の抽出・分析から健康栄養教育実施の一連のプロセスの各段階において、学生の如何なる学びが関連しているかについて示すことはできなかった。このことから、プロセスの各段階における指導管理栄養士のアプローチや学生の学びの変容の過程に関する解析の必要があると考

える。

VI. 結 論

千歳保健所の臨地実習で、2008年度より、地域健康課題の抽出・分析から健康栄養教育実施の一連のプロセスを体験した学生の総括記述を検討し、臨地実習での学びを把握した。

1. 学生の記述と自己評価から、臨地実習の目的である「公衆栄養の重要性」「協働と他職種、関係機関の連携」に関する目標は達成できたことが示唆された。
2. 実習施設の特性と実習期間の関連から「地域社会資源の理解や地域で暮らす人を生活の主体者として捉える」は、他の目標項目より低い結果となった。
3. 健康栄養教育実施の一連のプロセスを体験した学生は、健康栄養教育のプロセスを理解した他に、メンバー間に連帯感を生み、将来展望を示すことに繋がっていた。
4. 臨地実習の目標達成のためには、科目担当教員と指導管理栄養士の連携が不可欠であった。

以上の結果より、学生が臨地実習で健康栄養教育の一連のプロセスを体験することは、臨地実習の目的の達成と、メンバー間の連帯感を生み、将来展望を明確にすることに繋がることが示唆された。また、科目担当者と指導管理栄養士の連携の重要性が示唆された。

今後は、健康栄養教育実施の一連のプロセスの各段階において、学生の如何なる学びが関連しているかを明らかにするために、指導管理栄養士のアプローチと学生の学びの変容の過程の関連性について詳細な解析が必要であると考えられる。

謝 辞

臨地実習で学生指導頂きました北海道千歳保健所所長と職員の皆様、学生の調査にご協力いただきました千歳保健所管内特定（多数）給食施設等

の従事者の皆様に深く感謝申し上げます。

文 献

- 1) 厚生労働省：21世紀の管理栄養士等あり方検討会報告書について。（2012年12月3日取得，<http://www1.mhlw.go.jp/houdou/1006/h0608-1.html>）。
- 2) 栄養調理関係法令研究会：平成24年版栄養調理六法. 11-16, 名古屋, 新日本法規, 2011.
- 3) 厚生労働省：管理栄養士・栄養士養成施設カリキュラム等に関する検討会報告書について。（2012年12月11日取得，http://www1.mhlw.go.jp/shingi/s0102/s0205-1_11.html）。
- 4) 日本栄養改善学会理事会：「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム」の提案. 栄養学雑誌, 67: 46-75, 2009.
- 5) 手嶋哲子, 侘美靖, 田中律子, 安田直美：学生の意欲を引き出す臨地実習の取り組み. 北海道文教大学研究紀要, 31: 137-153, 2007.
- 6) 栄養調理関係法令研究会：平成24年版栄養調理六法. 1358-1359, 名古屋, 新日本法規, 2011.
- 7) 栄養調理関係法令研究会：平成24年版栄養調理六法. 3-10, 名古屋, 新日本法規, 2011.

Contents of Learning by Students in Clinical Training that Incorporated the Identification and Analysis of Community Health Issues

TEJIMA Tetsuko, SIMIZU Mari, MORI Kisa and IWAYAMA Naomi

Abstract: In the present study, we conducted clinical training that covered a series of processes from a questionnaire survey on health and nutrition to health and nutrition education for students who engaged in practical training at Chitose Public Health Office in Hokkaido from 2008. The reports submitted by students after completion of practical training were analyzed in order to clarify the contents learned by students during clinical practice, which incorporated the identification and analysis of health issues. Students' reports and self-evaluations indicated that the understanding of the objectives of clinical training, specifically "the importance of public health nutrition" and "collaborations and cooperation with other professions and relevant institutions", were achieved. However, lower scores were obtained for "understanding of social resources in the community" and "viewing community residents as central players in community life". Students who experienced a series of processes in health and nutrition education not only gained an understanding of the process of health and nutrition education, but also developed a sense of connectedness with other members, which led to a clearer future outlook. Cooperation between instructors in charge of the relevant subjects and registered dietitians in charge of guidance was considered important for achieving the goals of clinical training.